

審議会等の会議録

会議の名称	令和6年度第4回大牟田市子ども・子育て会議
開催日時	令和7年3月13日(木) 18時00分～19時50分
開催場所	市役所 北別館4階 第1会議室
出席委員	<p>【17名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮田 忠雄(元大牟田市教育委員会教育長)【会長】 ・辻 裕子(大牟田医師会)【副会長】 ・坂口 明夫(甘木山学園) ・猿渡 保生(大牟田市保育所連絡協議会) ・奥菌 睦子(大牟田市民生委員・児童委員協議会) ・内田 勉(大牟田市社会福祉協議会) ・福島 昭二(大牟田市学童保育所・学童クラブ連絡協議会) ・北野 真由美(福岡県障がい児等療育支援施設(りんどう学園)) ・坂口 志津香(大牟田市立小・中・特別支援学校PTA連合会) ・高口 恵美(スクールソーシャルワーカー) ・齊木 聖子(大牟田市子どもの居場所等連絡協議会) ・吉川 哲平(大牟田商工会議所青年部) ・城戸 信清(大牟田青年会議所) ・野口 理穂(帝京大学学友会) ・田中 凜太郎(有明工業高等専門学校 学生) ・阿野 奈々美(市民委員) ・一木 香織(市民委員)
欠席委員	<p>【3名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古賀 初(大牟田市小学校長会) ・安元 大介(大牟田地区私立幼稚園協会) ・尾下 愛美(市民委員)
事務局	<p>保健福祉部子ども未来室 原室長 保健福祉部子ども未来室 子ども育成課 橋本(浩)課長、菊竹主査、永井主査、 豆塚主査、吉田所長、前田主査 子ども家庭課 橋本(強)課長、鶴田副課長、池田主査、板谷主査、 植田主査 教育委員会事務局学校教育課指導室 杉野室長</p>
公開・非公開	公開
傍聴者数	1名

会議次第	1 会長挨拶 2 議題 (1) 大牟田市こども計画(案)に係る市民意見募集(パブリックコメント)の結果等について(資料1) (2) 大牟田市こども計画の最終案について(資料2) (3) こどもの声を聴く取組について(資料3, 4) 3 その他
------	--

《会議の経過》

1 会長挨拶

宮田会長が挨拶を行った。

2 議題

(1) 大牟田市こども計画(案)に係る市民意見募集(パブリックコメント)の結果等について(資料1)

(2) 大牟田市こども計画の最終案について(資料2)

資料1、資料2に記載している内容について事務局から説明。

(委員)

パブリックコメントで提出された市民意見が6人23件という数は少し寂しく感じる。前回の提出件数が何件だったのか、また、今回どのような方が回答されていたのか、わかるのであれば教えてほしい。

(事務局)

今回提出された意見の提出方法は、インターネット上の回答フォームからが3件、メールが2件、子ども育成課に配置していた意見提出箱に1件だった。子ども育成課の意見提出箱に提出された意見は、おそらく窓口に来られた保護者ではないかと思う。また、文化団体の方からも意見をいただいた。そのほかの方は意見の内容からみると保護者ではないかと思う。

(事務局)

5年前の前回は全部で17件提出されており、同様の意見をまとめると14件となっている。

(委員)

意見の提出期間が1か月弱と短かった。もっと保護者が見たくなるような工夫が必要だったのではないかと思う。

(委員)

私も6名は少ないと思う。期間が短かったこともあると思うし、これだけのボリュームのあるものを見て意見するのは躊躇するかもしれない。全部でなくても一部や興味のある所だけでも読んで意見をくださいと伝えるなどすれば良かったのでは。

また、もっと自分が宣伝すればよかったとも思う。この会議に出ている委員に市からお願いしてもらってもよかったと思う。

(委員)

私は以前、市が常に受け付けている意見箱に意見を出したことがある。そういったところにも子育てに関する意見はあると思う。そのような意見も今回のこども計画に反映されているのか。

(事務局)

市には「市民のこえ」という市に意見を出す仕組みがあり、また、ホームページからメールで各課問い合わせができるようになっており、子育て世帯への経済的な支援に関するご意見など様々な意見をいただいている。そうした意見も踏まえて、こども計画の策定を進めてきたところ。

また、計画に係る取組を進めていく上では、次の議題である「こどものこえを聴く取組」と合わせて、保護者等の大人の意見を聴いていくことも大事だと考えている。

(会長)

説明のあった基本施策1の「まちのみんなで“こども”と子育てを応援する環境づくり」の環境づくりの部分の修正について、意見はないか。

(委員)

特になし

(会長)

自分も言葉を調べてみたが、雰囲気づくりは一過性のものであるという意味合いがあるのに対し、風土の醸成は持続していくものとのことであった。硬い言葉ではあるが、風土の醸成が良いと思う。皆さんこれでよろしいか。

(委員)

はい。

(会長)

計画案の46ページに掲載している成果指標について、「①こどもの幸福度」や「②子育てをしやすいと思っている市民の割合」については、何かをしたら上がるものではなく、そういった意味では達成するのが大変な目標だと思う。前回の会議でも、「②子育てをしやすいと思っている市民の割合」については、目標値が高いが現実的に達成できるのかといった意見があったかと思う。確かその時には上位計画であるまちづくり総合プランの目標値に合わせているといった答えだったと思うが、その点はどうか。

(事務局)

前回の会議でもお話ししたが、「②子育てをしやすいと思っている市民の割合」の目標値については、今年度から新しい総合計画がスタートしており、その中で掲げている数値である。

他自治体(久留米市)においても同様に「子育てをしやすいと思っている市民の割合」を目標に掲げ、65%に近い実績値となっているケースもあることから、決して実現不可能なレベルではないと考えている。

きちんと当事者の声を聴きながら、本計画に掲げる取組を着実に進め、目標達成を目

指していきたい。

(会長)

こども計画については、最終案のとおりで策定いただくということによろしいか。

(委員)

はい。

(会長)

今後の製本等のスケジュールはどうなっているか。

(事務局)

今年度内に市長までの決裁をとり計画を策定する。製本作業も並行して進めており、完成後には各委員へ郵送する予定としている。

(3) こどもの声を聴く取組について(資料3, 4)

資料3、資料4に記載している内容について事務局から説明。

—資料3—

(委員)

中学生と市長との意見交換会の実施報告には、市長の意見が掲載されていない。市長がどんなことを言ったのか聞かせてほしい。

(事務局)

例えば、「イベントをもっと実施して、人の交流を増やしてほしい」という意見に対して、3月15日に開催予定の「産業フェスタ」のことなど、市の取組を紹介された。また、「世界遺産をはじめとして、大牟田の魅力をもっとPRしてほしい」という意見に対して、来年度(令和7年度)に世界遺産登録10周年を迎えるため、PRをしていくと回答された。このほか、「あいさつをしても返ってこないの、子どもの見本となるよう大人があいさつをしてほしい」という意見に対して、市長自身もあいさつをし、周囲に促していくと伝えた上で、あいさつをされて嫌な気持ちになる人はいないので、子どもたちもめげずに大人にあいさつをしてほしいと言われていた。

—資料4—

(委員)

学校にも相談箱を設置しているところがあるが、中々活用されていない状況にある。こういった仕組みは誰もがいつでも言える場があるという点で良い方法だと思うが、子ども・子育て応援条例やこども計画に基づく取組等に関する意見に絞るとより意見が出にくいのではないかと思うので、学校へ出向いて、直接伝えていく機会を作っていくことも重要だと思う。また、今回作成されるパンフレットは教材にもなると思うので、教育委員会と連携して、例えば道徳の時間を使って説明を行い、グループワークをして意見をもらおうとか、保護者に対してもPTAの研修の場を活用することも方法の一つと思う。そうした中で、子ども・子育て応援条例のことに触れると、計画に示されている条例の認知度向上にもつながると思う。ぜひ、学校との連携で進めてほしい。

(事務局)

学校と連携し、子どもたちへの周知啓発や働きかけを行っていくことは重要と考えている。また、国が定めている「こどもまんなか月間」などの機会を捉えて、保護者にも周知啓発していくことで、親子で一緒に話をしたり、意見を出してみたりすることを促していけたらと考えている。

意見の提出方法や周知方法、意見に対する対応など様々に検討することはあるものの、こども計画を策定したという機会を捉えて、まずは今回提案したような取組をスタートしてみて、対応する中でブラッシュアップしていきたいと考えている。

(会長)

学校との連携ということでは、小学校では出前授業もされていると思う。市長が各校を回って直接子どもたちに話をしているので、こういった機会も活用すると良いと思う。

(事務局)

教育委員会と調整し、来年度から小学校へ出前授業の中でも子どもたちのこえを聴いていきたいと考えている。

(委員)

「こどもいつでも意見箱」の回答ツールはグーグルフォームを使用するのか。

(事務局)

ロゴフォームを使用する。

(委員)

説明を聞いて、どんな形にすると回答しやすくなるのか自分も考えていた。LINEのチャット形式がいいのではないかと。若者のこえを聴いてみるのもいいと思う。(帝京大学や有明高専の)若者の委員の意見を聴きたい。

(委員)

予算が必要になるが、意見を出せば何かもらえるなどすると、意見が出やすくなるかもしれない。例えば、駄菓子をもらえるとかあると意見を出すのでないか。

(委員)

確かに自分もイベントでアンケートを取るときに物と引き換えにお願いしている。

(事務局)

子どもたちへの動機づけは有効な方法の1つだと思うので、検討していきたい。

(会長)

子どもたちには、学校で一人一台のタブレット端末が配置されており、授業でもかなり活用されているので、タブレットで回答することには慣れていると思う。

(委員)

忙しいとは思うが、市長が直接子どもたちと交流しふれあうことが重要だと思う。直接出向いて意見を聴く機会を設けることを年1回と言わず何度もやる方がいいと思う。オンラインで意見交換する方法もある。何か他の取組のついでなど、学校の負担が少ない仕方に取り組むと良いと思う。

(会長)

学校や教育委員会との連携の重要性についての意見が挙がっている。事務局として、

教育委員会も出席されているが、何か意見等はないか。

(事務局)

子ども・子育て応援条例の制定以降、今回のこども計画の策定や子どもに係る様々な取組について、教育委員会と子ども未来室とで密に連携を取っている。資料3で報告があった中学生と市長との意見交換会も一緒に対応しており、子どもたちにとっても良い機会になったと考えている。今後も、出前授業や子どもからの声の聴き方についてなど、部局を超えて連携し対応していく。

4 その他

(事務局)

事前に連絡していたとおり、本日が今年度最後の会議となることから、委員1人ずつメッセージをいただきたい。

(委員)

子どもたちは大人に意見を言うことに慣れていない。お菓子を配るのもいいと思うが、意見することを大人が子どもたちに提案するなど、困っていることが言いやすくなる環境づくりが必要だと思う。どんな子どもでも意見を持っているので、それを認めてあげて良い方向につなげていけたらと思う。

(委員)

児童福祉法の改正により、令和6年4月から子どもアドボカシー（子どもの意見表明を支援する活動）の取組が始まった。児童養護施設では意見表明支援員を配置することになり、トレーニングを受けて子どもの意見を引き出せるようなスキルを身につけていくことが重要となっている。しかし、大人自身が子どもの頃に大人に意見するという経験をしてきていないため、子どもから意見を言われることに慣れておらずスキルアップが求められている。大人に対する研修も考えていく必要があると思う。

また、子どもも大事だが、子どもの周りにいる大人も大事にしていけないといけないと思う。

(委員)

少子化が急速に進んでいる。また、子どもたちについては、居場所や育ち、不登校など様々な課題がある。この会議では、今回のこども計画の策定にあたって、活発に意見が出て良い計画になったと思う。

この会議の委員はそれぞれの立場で参加していることから、それぞれの分野の情報を共有しながら、子どもを産み育てやすいまち、子どもの意見が尊重されるようなまちになるように取り組んでいけたら良いと思う。

(委員)

今の子どもたちはしっかりしている。地元の小学校の相談室に月2回参加している中で感じたのは、対面での話をすると本音が聞けるということ。アンケートも大事だが、対面で話を聴くことが大事であり、遊びの中でも良いので、対面で声を聴くと実際は良い意見が聴けるのではないかと思う。また、子どもに関わっている関係者や関係団体から意見を聞くことも有効だと思う。不登校の子が少なくなると、子どもが生き生きとし

ているまちになってほしい。子ども健やかに育っていけるよう主任児童委員としてしっかり支援していきたい。

(委員)

生活困窮者の支援を行っている。生活困窮者の方々は経済的な部分で困窮しているというイメージを持たれがちだが、社会的に孤立してしまっており、困っているのに手をあげられない方が多いのが実態。そうした社会的に孤立している人にいかに寄り添って支援を届けられるか、また支援できる人をいかに増やしていくかが大事。既存のサービスについても、もう少し利用料金が安ければ利用したいという人もいる。支援を必要とする人が安心して子育て等をしていけるように、今回の計画に記載している内容を実現していくことが重要。一緒に頑張っていきたい。

(委員)

学童施設が増設され待機児童も減ってきており、高学年も利用できるようになってきたが、子どもにとって学童を利用することが本当に良いことなのかと考えることがある。数年前から、就労などではなく、保護者の都合で預けているのではないかと思うことが増え、学童という施設が子どものためのものなのか、保護者のためのものなのかわからなくなっている。今後は本来の目的である、子どもにとってより良い環境を作っていければ良いと思うし、この会議が子どものための会議になると良いと思う。

(委員)

発達障害の子どもが増えている。保護者の中にも意見が言えない人や難しいことがわからない人がいる。そうした人の声をどのように拾い上げるかも重要だと思う。意見を聴くことができる大人を養成していくことが必要。

中学生と市長との意見交換会の中であいさつの話があったが、自分が朝、ごみ出しをしていた時に自転車で通り過ぎた子があいさつをしてくれて、一日中嬉しい気持ちになった。あいさつの重要さをあらためて感じた。

(委員)

今回提案のあった「こどもいつでも意見箱」はぜひやってもらいたい。子どもは正直に意見を言ってくれるので、もらった意見については実現してほしいと思う。

先日市の事業で小学校3校の取組について発表を聴く機会があった。災害時の対策の説明があったが、大人も日頃から準備していかないといけないなと思い、子どもの意見を聴くと親も気づきがあることを学んだ。子どものこえを聴く場に大人も出ていく必要があると思う。PTA対象の取組であってもPTAだけでなく地域の方も参加してもらえたら良いと思う。

また、子どものこえを聴く取組は、色んな学年ですれば、その年代ごとの色んな意見が出て良いと思う。

(委員)

いろいろな状況に置かれている子どもがいるが、周りの環境に左右されず、自分と向き合い社会に出てほしいと思うし、そうした成長をしていけるまちであってほしい。子どもが自分の権利を知り、大切にできるようになればいいと思う。そのための取組に協力していきたい。

(委員)

改めて自分と子どもの関わり方について考えさせられた。子どもは大人の顔色をうかがっている。持っている意見を言える子は多くなく、発言できない子もいて、家族だけではなく、大人とのコミュニケーションが少ないのだろうと思う。「あなたは大事だよ」と言い続けられる人が近くにいることが重要だと思う。親ではない人との繋がり、いわゆる斜めの関係性が大事だと思う。

親の中にも意見や「助けて」と言えない人が少なくないので、そうしたヘルプを発信できない根底の状況を打開することが必要。水面下に潜ってしまう子どもをどう救い上げられるか考えていかないといけないと思う。

(委員)

小学校から大学まで大牟田で過ごしても、大牟田で就職する人が少ない。小さい頃から地域に戻って来てもらえるような仕組みづくりが必要だと思う。そのためには若い人が働きやすい環境をつくっていかれたらと思うし、教育の部分でもできることをやっていく必要があると思う。

(委員)

意見を聴くことは重要だが、難しいことでもある。周知・発信に本気でやっていただきたい。ホームページや広報おおむたで周知しても、みんなが能動的に情報を取りにいかないといけないため、中々意見が出にくいと思う。学校の帰りの会で聞いてみるなどやれることはまだあるのではないか。こどもや保護者にプリントを配布しても良いと思う。

パブリックコメントの中には、「遊ぶところが少ない」や「医療費を安くする」といった意見があり、アンケート結果とも合致しているが、「検討する」という回答に留まっている。やれない理由を深堀するのではなく、意見を集めた以上は前向きな理由を述べてほしいし、その方が納得できると思う。出た意見は大切にしてほしい。

(委員)

意見をして何かが変わると嬉しいと思う。また、意見を聴くときに、自分にとってメリットがあるとわかると積極的になれると思うので、1つでも2つでもこどもの意見を受けて実現できたことを提供できたら良いと思う。1つ1つの意見を大切にしてほしい。

(委員)

将来のことを考えたときに、自分は親に早く孫の顔を見せたいと考えているが、お金のことを考えてしまい、すぐに子どもを持つということは現実的には難しいと思う。経済的な支援がもっとあると、子どもを産み育てやすくなると思う。来年度はそういったところももっと議論できれば良いと思う。この会議に参加し、大牟田のことが知れて良かったと思っている。

(委員)

この会議では何度も意見を言わせてもらった。人がいないと何事も進まないの、人を大事にしないといけないと思う。そのはじまりが子ども。親に関わることで自信がついてほしい。自分もうまく子どもを育てられているか自信はないが、話を聞いてくれる家族や仲間がいることはありがたく、人と話すことは重要だと思う。市がやって

いることに触れる機会が少ないのはもったいないと思う。子どもは親を見て育つので、大人も大事ということをあらためて認識した。

(委員)

子どもを持つ親は強い。市民委員として参画が決まった時には、自分が意見しても良いのだろうかと思っていたが、子どもに関することになると様々な意見を発することができたと思っている。

また、市が様々な周知するだけでなく、この会議の委員一人一人もこどもに係る取組が行われていることを発信していけると良いと思う。今日の会議のことを子どもに聞かれて「お仕事だよ」と言ってきたが、そういう時に子どもにわかる言い方で伝えることで市の取組も伝えていければと思った。できることから形にしていきたいし、今まで子どもに関する活動をしていることをあまり言ってこなかったが、今後は自信を持って発信していきたい。

(会長)

子ども・子育て応援条例を作ったことが市にとってひとつの契機になったと思う。この会議にもいろいろな方に参画いただき、様々な意見が出て良い議論になった。大牟田地域教育力向上推進協議会では、ともに育つ「共育」、響き育つ「響育」がスローガンになっているが、大人側の育ちが伴っていないと感じる。

こども計画は市民全体が関わる計画であり、委員がそれぞれの団体に計画の内容を伝えてほしい。計画は作って終わりでない。事務局としても、成果指標の目標値の達成に向けて、必要な財源を確保できるよう市長へ強く伝えてほしい。また、この計画は5年間の計画であるが、5年という期間は長く、特に今の世の中の変化には対応しきれなくなる。1年1年見直して一緒に改善していきたい。

(事務局)

メッセージありがとうございました。

「その他」の2点目として、昨年度この会議で公立保育所の充実に向けて議論いただいた。令和7年度は公立保育所の整備計画を策定することとしている。来年度はこの会議で意見をいただきながら計画づくりを進めていきたいと考えている。

(事務局)

もう一点、前回の会議で委員からご意見いただいた地区公民館のWi-Fi利用について、学習用で使う場合は、利用申請の手続きをしていただくことで利用できることが確認できた。生涯学習課から地区公民館の職員に対して、利用の申し出があった場合にきちんと対応できるように改めて確認を行ったとのことだったので報告する。

閉会 (19時50分)